

令和7年12月

令和8年度入学試験合格者の皆さんへ

名古屋芸術大学 教育学部
学部長 鶴野隆浩

名古屋芸術大学教育学部に合格された皆さん、誠におめでとうございます。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。

さて、大学での学びは「学修」と呼ばれ、これまでの「学習」とは異なります。それではこの2つはどう違うのでしょうか？これまで皆さんは沢山の学びをしてこられたはずです。しかし、その多くは与えられた問い合わせに対して正解を出すものなのではなかったでしょうか。それに対して、大学での学びに正解はありません。問い合わせは与えられるものではなく、皆さん自身が作るもので、「学修」は様々な学びを通して、皆さん自身が自らの問題意識に基づいて問い合わせを作り、その問い合わせを解決していくプロセスなのです。

このような話をすると、大学生活に不安を覚えるかもしれません。でもそこはご安心ください。私たち教職員は、皆さんのが主体的な学びを深め、様々な経験ができるよう、全力でサポートいたします。大学は自由な学びの場であり、大学生の時期は様々な経験ができる時です。入学後は精一杯、大学生活を楽しんでください。

本学教育学部は、芸術大学にある教育学部です。本物の芸術が溢れています。ぜひ沢山の芸術のシャワーを浴びてください。また子どもたちと関わる機会も数多くあります。いっぱい子どもたちと触れ合ってください。芸術にも、子どもたちにも「感性」「創造性」「多様性」が溢れています。皆さん自身の持つ「感性」「創造性」を大切にし、「多様性」のある空間の中で、他の誰でもないオンリーワンの教育者・保育者を目指していってほしいと願っています。

本学教育学部では、入学後の学びをより円滑にスタートしていただくために入学前課題を設定しています。これらの課題は、学習から学修への移行をイメージしていただくとともに、皆さんのが目指す将来に通じる入口ともなるものです。ぜひ、積極的に取り組んでください。課題への取り組みを通して、大学での学びへの期待をさらに高めていただければ幸いです。

入学式で皆さんにお目にかかるのを、教職員一同、楽しみにしています。

【お問い合わせ先】

名古屋芸術大学教育学部子ども学科（担当：岡田）
E-mail: nua-edu+pre@nua.ac.jp

令和8年度入学生対象 教育学部子ども学科 入学前教育

次の3つの課題を、期日までにメールまたは郵送で提出してください。

【提出先】

メールの場合 : nua-edu+pre@nua.ac.jp

※タイトルは<【入学前教育】受験番号>とすること。

郵送の場合 : 〒481-8503 愛知県北名古屋市熊之庄古井 281 番地

名古屋芸術大学 教育学部 入学前教育係

課題1：入学前にやりたいこと（入学準備だけでなくお楽しみも含めて）をリストアップして計画を立てる。

目的：4月から大学での学びが始まります。大学での生活に備えて、入学前にやりたいこと（やるべきこと・やっておきたいこと）を整理し、実行しておくことで、入学前までの期間を悔いなく過ごし、大学生活に切り替えることができます。まずは、入学前にやりたいことのリストを作成し、4月までにどんなことができるかの計画を立ててみてください。

リストにするものには、大学での学びに備えて準備しておくことだけでなく、お楽しみ（例：友人と旅行に行く、読みたかった漫画を読むなど）も含めることが大切です。やるべきことと、やりたいことのバランスをとって、日々の生活を過ごすことは、大学に入ってからの生活を送るためのとても大切な練習になります。計画どおりにいかなかつた場合、なにがうまくいかなかつたのかを考えることができますし、計画どおりにいった場合は、時間や体力等の見積もりが正確だったことが確認できます。

大学に入ってからは、これまでの生活より、自分でスケジュールを設計することが一層重要になります。その練習と考えて、まずは計画を立ててみてください。

- 取組方：1. 合格通知が届いた日から3月30日までにやりたいことのリストを作る。このときには、思いつく限りの項目を挙げてみる（3月31日は入学準備に充てる）。
2. リストに優先順位をつける。
3. 実際に3月30日までに取り組む計画を立てる。リスト内容のすべてをこなそうと考えるのではなく、優先順位に従ってできることとできないことのバランスをとって計画を立てる。
4. 計画をカレンダーや用紙、PCのファイルなどにまとめる。〆切までに作成したリスト（取組方1で作成したもの）と計画のコピーを提出する。なお、提出物には受験番号と氏名を記載すること。
5. 計画に従って、3月30日までの日常を過ごす。

※リストや計画の様式は自由ですが、ひな形を1つ用意しましたので参考にしてください。

- ・教育学部入学前課題1_リスト [Wordファイル](#) [PDFファイル](#)
- ・教育学部入学前課題1_カレンダー [Wordファイル](#) [PDFファイル](#)

提出日：令和8年1月30日（金）必着（2月受験者は同年2月27日（金）必着）

課題 2：あなたが興味を持った教育・保育・子どもに関連する記事を読んでまとめる。

目的： 大学での学びを豊かなものにするために、次の 2つを知ることは大切です。

ひとつは、現在の社会で起こっていることについて知ることです。教育や保育、福祉のあり方は、社会の動向から少なからず影響を受けています。そのため、教育や保育、福祉について学ぶ際に、現在の社会で起こっていることを知っているか、知らないでいるかでは、学びの深さが違ってきます。

もうひとつは、あなた自身が教育・保育・子どもについてどのような関心を持っているかを知ることです。大学での学びは、自身の興味・関心を深めていくことでもあります。

この 2つを知るために、ニュース番組を見たり、新聞や Web に掲載される記事に目を通したりして、興味を持った記事を収集してまとめてみることが有効です。しかしながら、この習慣は簡単に身につくものではありませんし、忙しい中ではおろそかになってしまいがちなこともあります。

そこで、この課題への取り組みを通して、社会の動向に目を向ける習慣を身につけてください。そして、自身の興味・関心を知ったうえで、大学での学びに取り組む準備を整えてください。

※これまでの生活経験、知識や学んだことも生かしながら、読んでまとめるようにしましょう。

取組方：1. 新聞や Web に掲載されている教育・保育・子どもに関する記事のうち、気になるものを集める。

2. 集めた記事を読む。

3. 集めた記事から、最も興味・関心を持った記事ひとつについて、以下のア～エに従ってまとめる。

ア) 用紙に作成する要約のタイトルと自分の受験番号・氏名を記述する。

イ) 何月何日に、どのメディア（新聞名や web サイト名など）で見つけた、どのようなタイトルの記事であるかを記述する。

ウ) その記事がどのような内容であったのかを 300 字程度でまとめる。

エ) その記事を読んで、考えたことや感じたことを 500 字程度でまとめる。

※PC で打てる人は word で打って、プリントアウトして郵送するか、メール添付して送る。

手書きがよい人は、レポート用紙または原稿用紙に書いて郵送する。なお、読んだ記事のコピーか URL も提出すること。

提出日：令和 8 年 2 月 27 日（金）必着

【提出先】

メールの場合：nua-edu+pre@nua.ac.jp

※タイトルは<【入学期前教育】受験番号>とすること。

郵送の場合：〒481-8503 愛知県北名古屋市熊之庄古井 281 番地

名古屋芸術大学 教育学部 入学期前教育係

課題3：添付の2つの資料（「芸術」に関する資料、「教育」に関する資料）を読んで、それぞれに対する自分の考えをまとめる。その後、「<芸術大学>で教育を学ぶ」ことについて、自分の考えをまとめる。

資料1：「芸術」に関する資料

資料2：「教育」に関する資料

目的： 4月から、「名古屋芸術大学教育学部」での学びが始まります。本学部は芸術大学のなかにある教育学部ということで、他の教員養成大学にはない特長を持ち、強みを身につけることができる学部です。本課題の目的は、あなたが大学での学びを始めるまえに、「芸術」と「教育」について、改めて自分の考えをまとめてみることです。

あなたは、「芸術」という言葉を聞いたときと、「教育」という言葉を聞いたときに、2つは似ているものだと感じますか？それとも、2つは異なるものだと感じますか？似ているか異なるか、「どちらかが正解で、どちらかが間違い」というものではありません。大切なことは、あなたが「芸術」と「教育」の2つについて、まずはどのように感じるか、その背景にあるものは何かを考えてみることです。改めて強調しますが、「正解」を探すものではありません。

上で提示した資料は、本学部の教員がまとめた資料です。あえて「芸術」に関する資料と、「教育」に関する資料が分かれています。どちらの資料に対しても、同意や反対を含め、あなたなりの感想や考えをもつかと思います。なぜそのような感想をもち、そのような考えに至ったのでしょうか？まずはそのことについて考えて、まとめてみてください。そして、改めて自分の2つの考えを読み直してから、「<芸術大学>で教育を学ぶ」ことについてのあなたの考えをまとめてみてください。

この課題はかなり高度な課題です。難しいと思いますが、うまくできる、できないではなく、まずは取り組んでみてほしいと思います。

取組方：1. 用紙にタイトルをつけるスペースを確保しておき、自分の受験番号・氏名を記述する。

2. 上記資料1の内容について、自分の考えを250字程度でまとめる。

3. 上記資料2の内容について、自分の考えを250字程度でまとめる。

4. 取組方2と3で記述した自分の考えを読み直す。その後、2つの自分の考えと、今までの自分の経験等とを踏まえて、「芸術大学で教育を学ぶ」ことについての自分の考えを、300字程度でまとめる。

5. 取組方4の内容を端的に反映させたタイトルを、取組方1で確保しておいたスペースに記述する。

※PCで打てる人はwordで打って、プリントアウトして郵送するか、メール添付して送る。
手書きがよい人は、レポート用紙または原稿用紙に書いて郵送する。

提出日：令和8年3月26日（木）必着

【提出先】

メールの場合：nua-edu+pre@nua.ac.jp

※タイトルは<【入学前教育】受験番号>とすること。

郵送の場合：〒481-8503 愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地

名古屋芸術大学 教育学部 入学前教育係

資料1 <芸術に関する資料>

以下の考え方①と②は、教育学部の教員がまとめた「芸術」についての考え方の一例です。これは「正解」ではなく、「このような考え方がある」というスタンスで読んでください。

【考え方①】

芸術について、芸術は「自己表現の手段」であり、作り手が自分の内側にある感情やイメージを、自由に作品にすることが大切だという考え方があります。たとえば、絵や音楽、映像、ダンスなどを通じて、言葉だけでは伝えきれない気持ちや感覚を形や音で表します。こうした作品づくりのプロセスは、作り手自身が「自分って何だろう?」と問いかけ、分からぬことにワクワクしながら表現を試してみる作業でもあります。できあがった作品は、その人らしい個性的なメッセージを発するものになり、見る人や聴く人に新しい発見や感動を与えるでしょう。

このように、芸術では「どのように自分の思いを形にするか」という過程こそが重視されます。ときには既存のルールやテクニックに縛られず、新しい素材や表現方法を試すことで、「もっと面白いものができるないか?」「より自分らしさを出すにはどうしたらいいか?」を探求し続けます。作り手が本気で向き合って生まれた作品には、人の心を強く揺さぶり、見る人の考え方を変えるほどの力が宿ることもあります。こうした表現の試行錯誤において、「分からぬままやってみる」ことを楽しむ姿勢が、芸術ならではの創造力を育んでいくのです。

【考え方②】

芸術について、芸術とは「社会や文化との対話におけるひとつの形」であり、作品は作り手だけではなく、社会や歴史、鑑賞者など、さまざまな要素とつながってるとする考え方があります。作品には、その時代や地域の政治、習慣、伝統、問題などが深く関わっており、作り手はときに「このテーマはどういう意味があるのだろう?」「このままでは何かが足りないのでは?」と考えながら、新しい表現方法を探すこともあります。たとえば、戦争や環境問題といった大きなテーマを扱う作品は、多くの人に衝撃や気づきを与え、社会を動かす力になるかもしれません。

また、インターネットやSNSを通じて作品が広がる現代では、世界中の人々と自由に作品を見合い、意見を出し合うことができます。こうしたやりとりの中では、「これまでとは違う見方があるかもしれない」「もっと良いアプローチがないか?」と、分からぬことをむしろ楽しみながら試行錯誤を繰り返す場面も多いでしょう。こうして「社会や文化との対話としての芸術」は、既存の枠組みにとらわれず、多様な価値観を交差させる大きなきっかけとなります。私たちが互いの立場や考え方を知り、より良い解決策や新しいアイデアを生み出すために、芸術は大きな役割を果たす可能性を秘めているのです。

資料2 <教育に関する資料>

以下の考え方①と②は、教育学部の教員がまとめた「教育」についての考え方の一例です。これは「正解」ではなく、「このような考え方がある」というスタンスで読んでください。

【考え方①】

教育について、社会で大切に受け継がれてきた知識や技術を、きちんと整理して次の世代に伝えることであるという考え方があります。たとえば学校や大学では、教科書やカリキュラムを使って、国語や数学などの基礎的な学びを行います。教師は専門的な知識をもとに、授業をわかりやすく組み立てたり、学ぶ順番を考えたりします。こうして身についた読解力や計算力は、普段の生活や将来の仕事で役立つだけでなく、社会で自立して生きていくための土台にもなります。また、もっと専門的なことを勉強すれば、社会が抱える問題を解決したり、新しいアイデアを生み出したりする力も育ちます。

こうした「教える側（教師）」と「学ぶ側（生徒や学生）」がはっきり分かれた教育は、社会全体が求める一定の学力や技能を、みんなに行きわたらせる方法として重要です。これによって、多くの人が基礎的な力を身につけやすくなります。また、専門分野の勉強を深めれば、将来の仕事や進学に必要な資格や学歴が得られます。それは社会の成長を支える人材を育てることにもつながり、安定した働き手や新たな技術を生み出す助けにもなるのです。

【考え方②】

教育について、学習者の興味や関心を大切にし、それぞれの創造力を伸ばすことであるという考え方があります。教師はただ教えるだけの存在ではなく、生徒や学生と一緒に考えたり、探究したりするパートナーのような立場です。たとえば、ワークショップやグループ活動、プロジェクト学習などでは、生徒自身がやりたいことや疑問に思うことをもとに学びを進めます。自分たちで問題を見つけて調べたり、試行錯誤しながら発表したりする中で、知識だけでなく、コミュニケーション力や問題解決力など、多面的な力を身につけることができます。

また、教育に求められることは、その結果だけでなく、その過程での発見や工夫、チームワークの発揮です。自分で考えて動く経験が増えると、やる気や自信も高まり、さらに深い学びへとつながりやすくなります。情報化や国際化が進む現代社会では、みんながそれぞれの個性を生かし、いろいろな人と協力して新しいアイデアを生み出す力が求められています。だからこそ、自分の得意や興味を出発点にして、柔軟に考えたり行動したりできるようになることが大事だと考えられているのです。

【入学前の学びに関する推奨事項】※課題ではありませんが、ぜひ取り組んでください。

◆推薦図書の購読を行う。

本学で本格的に学び始める前に、教育・保育・支援・子どもの基礎等についての書籍に触れ、入学後の学修の見通しを持つことをお薦めします。特に、子どもとはどんな存在であるのか、どんな存在だと自分は考えているのかについて考えてみることは大切です。大学での学修では、教育・保育・支援・子どもに関する理論的な事柄と実践的な事柄との両方を学び、その両方を融合させていくことが大切になります。そして、学修の基礎となる理論的な事柄についての学びを進める方法のひとつが、「書籍（文献）を読むこと」です。そこで、入学前に読んでおくとよいと考えられる書籍をいくつか紹介しますので、興味がある書籍を読んでみてください。なお、書籍リストはこの書類の最後にあります。

◆子どもを惹きつけ、子どもと一緒に楽しめる活動を身につける。

教育や保育、福祉の現場で働く際には、子どもの前に立つ機会がたくさんあります。子ども（小学生または3歳以上）と一緒に楽しめる活動を多く身につけておくこと、教育者・保育者としての技術の引き出しを増やしておくことは、教育・保育実践の中でのあなた自身を助けてくれることにつながります。

- 【例】
- ・弾き歌い（ピアノ・オルガンなど）や楽器演奏、独唱
 - ・絵本や紙芝居の読み聞かせ
 - ・手を使った遊び（手遊び、指遊び等）
 - ・体操やダンス
 - ・制作したもの（粘土、折り紙、切り紙、絵画等）についてのプレゼンテーション
 - ・その他、自分で工夫したもの

◆「春を呼ぶ芸術フェスティバル」の雰囲気を感じる。

教育学部では、毎年「春を呼ぶ芸術フェスティバル」を開催しています。学部の在学生が、地域の児童や小学生及びその保護者にも芸術の楽しみを味わってもらえるようにと、日頃の学習や活動の成果を工夫し、パフォーマンスや音楽活動を披露しています。今回は、令和8年3月8日（日）に、名古屋芸術大学東キャンパスで開催する予定です。

この様子を観ていただくことで、芸術大学の中にある教育学部の良さを知っていただくことができると思います。詳細は追って連絡いたします。教育者・保育者を目指す先輩達の熱演をご覧ください。

◆中学校までの教科内容の復習に取り組む。

教育者になるにせよ、保育者になるにせよ、支援者になるにせよ、子どもとかかわっていくなかでは中学校までの教科内容の知識が求められることがあります。実際、教員採用試験や保育職公務員試験、一般公務員試験等では、中学校までの教科の知識が「教養として」求められます（これは一般的な就職活動でも同じです）。中学校までの教科内容は、教育学部での学びの基礎となります。ぜひ、入学までの間に中学校までの教科内容をひととおり復習しておいてください。なお、復習にお薦めの書籍を「お薦め書籍リスト」にも記載しておきました。

◆大学への入学から卒業後の進路までを見据えてみる。

皆さんは教育者・保育者・支援者を志して本学に入学されることだと思います。本学での学びを始める前に、あなたの将来の進路（目指す将来の姿）や、将来就きたいと考えている職業（教員・保育士・福祉の仕事など）について、“なぜその職業に就きたいのか”、“その職業に就いてどのようなことを大切にしたいのか”をもう一度まとめ、初心を形にしておくことをお薦めします。そして、将来を見据えて、大学生として学びたいことや取り組みたいこと（自己課題）を考えてみてください。

また、あなたが将来就きたいと考えている職業（教員・保育士・福祉の仕事など）について、その職業が具体的にどのような仕事や活動を行っているかを調べ、まとめてみることもお薦めします。例えば、小学校教諭の仕事は単に「授業をすること」だけでしょうか？保育士は、子どもが帰った後にどんなことをしているのでしょうか？

入学後、本格的な学びが始まる前に、将来就きたいと考えている職業についての理解を広げ、その職業へのイメージを自分なりに描いてみてください。この取り組みは、大学での学びを進めていくうえでの原動力となります。

お薦め書籍リスト

◆ アート関連

- ・佐藤雅彦 『新しいわかり方』 2017年 中央公論社 1,900円
- ・末松幸歩 『13歳からのアート思考』 2020年 ダイヤモンド社 1,800円
- ・川内有緒 『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』 2021年 集英社インターナショナル 2,100円
- ・山口周 『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?』 2017年 光文社新書 760円

◆ 小学校教育

- ・中島さち子 『知識ゼロからの STEAM 教育』 2022年 幻冬舎 1,540円
- ・佐藤学 『教室と学校の未来へ』 2023年 小学館 1,400円
- ・大村 はま 『新編 教室をいきいきと 1』 1994年 ちくま学芸書房 1,100円
- ・NHK 「こども」プロジェクト 『4年1組命の授業』 2003年 NHK 出版 1,200円
- ・金田一 清子 『子どもの笑顔に会いたくて』 2015年 新日本出版社 1,600円
- ・行田 稔彦ほか 『いのち輝く』 2008年 ルック 2,000円 (26人の教員が各教科・教室実践をまとめた本。全部読まなくても興味ある実践を読むだけでも勉強になります)

◆ 保育・幼児教育

- ・佐久間 路子 『子どもの「こころ」をのぞいてみよう』 2021年 ぎょうせい 1,540円
- ・平松 知子 『子どもが心のかつとうを超えるとき』 2012年 ひとなる書房 1,600円
- ・中河 李枝子 『子どもはみんな問題児。』 2015年 新潮社 1,000円
- ・針生 悅子 『赤ちゃんはことばをどう学ぶのか』 2019年 中公新書ラクレ 820円

◆ 福祉

- ・『施設で育った子どもたちの語り』 編集委員会 『施設で育った子どもたちの語り』 2012年 明石書店 1,760円
- ・村岡 真治 『障害児の人格を育てる放課後実践』 2018年 全障件出版社 1,500円
- ・安部 芳絵 『子どもの権利条約を学童保育に活かす』 2020年 高文研 1,800円

◆ 芸術

- ・上野 行一 『五感をひらく 10 のレッスン——大人が愉しむアート鑑賞』 2014年 美術出版社 990円

◆ 子ども学・一般

- ・太田 直道 『揺れる子どもの心』 三学出版 1,320円
- ・池上 彰 『世界を変えた 10 人の女性』 文春文庫 759円
- ・エレノア・ポーター・作 菊島 伊久栄・訳 『少女ポリアンナ』 偕成社文庫 990円 (同名の作品であれば、この出版社でなくても構いません)
- ・モンゴメリ・作 村岡 花子・訳 『赤毛のアン』 新潮文庫 781円 (同名の作品で小中学生向けでも構いません)
- ・ウェブスター・作 松本 恵子・訳 『あしながおじさん』 新潮文庫 (同名の作品で小中学生向けでも構いません)
- ・檀 ふみ 『父の縁側、私の書斎』 新潮文庫 649円

◆ 中学校までの復習

- ・旺文社 (編集) 『高校入試 中学 3 年間の総復習 5 科』 2021年 旺文社 1,045円
- ・濱崎 潤之輔 『改訂版中学校 3 年間の英語が一冊でしっかりとわかる本』 2020年 かんき出版 1,320円
- ・小杉 拓也 『改訂版中学校 3 年間の数学が一冊でしっかりとわかる本』 2021年 かんき出版 1,100円
- ・宮路 秀作 『改訂版中学校の地理が一冊でしっかりとわかる本』 2021年 かんき出版 1,375円
- ・重野 陽二郎 『改訂版中学校の歴史が一冊でしっかりとわかる本』 2021年 かんき出版 1,375円
- ・蔭山 克秀 『改訂版中学校の公民が一冊でしっかりとわかる本』 2021年 かんき出版 1,375円
- ・森 圭示 『中学校の理科が一冊でしっかりとわかる本』 2021年 かんき出版 1,430円